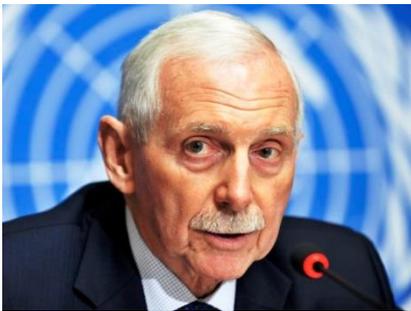


わが師ウィリアム前 IOM 理事長

2022 年が始まりました。世情は混とんとして、心の中に膿が澱み溜まっているような、落ち着かない日々を感じているのは私だけではないでしょう。

私の様に 80 才も過ぎると、前例のないコロナ禍を生きている若者たちに、ともかく、未来への希望を与えられないか？ 自分たちの未来を自分たちで探せないか？ 500 年先、1000 年先、「あの頃の若者達は苦難を克服して、歴史に偉業を遺せたのではないか」などと思ったりします。

今朝は、当社のホームページでは、私が途上国の水問題に何故ここまで執着するようになったか、その衝撃的な出会いについて紹介させていただきます。



ウィリアム氏

私の師匠、人生の師はウィリアム・レイシー・スウィング前 IOM/OIM 理事長です。(昨年、氏はクワラルンプールで、永年の過酷な責務をはたされ、永眠されました。)

今日、私がお伝えしたい事は、私を変えた氏の一言です。

氏いわく、「自分が飛んでいる荒野には、行く宛もなく、水も、食料も、家も無く彷徨っている人々が何百万人もいます。」氏は航空機を利用するときエコノミー以外は決して利用されなかった。私も既に 70 歳になろうというときに、氏の指導を受け、師事しました。

それを思うと贅沢など出来るはずないだろう？

私の途上国への水供給の執念は、師匠の執念が乗り移ったのです。



2022 年 1 月 1 日

小田 兼利